

# Farmnote Color

## 活用事例

---

紫波町和牛繁殖農家  
吉田 辰巳

# 自己紹介

## 就農するまで

地元の工業高校卒業後、関東の鉄鋼関連企業へ就職

11年間勤めた後、帰郷

2年前に就農し現在32歳

学校等で農業・畜産を学んだ経験なし

## 現在

家族で牛と米の作業に奮闘しながら、農業見習い中

家族は両親・妻・子3人



# 農場概要

## 経営規模

繁殖雌牛 17頭

水稲 18ha

## 飼料基盤

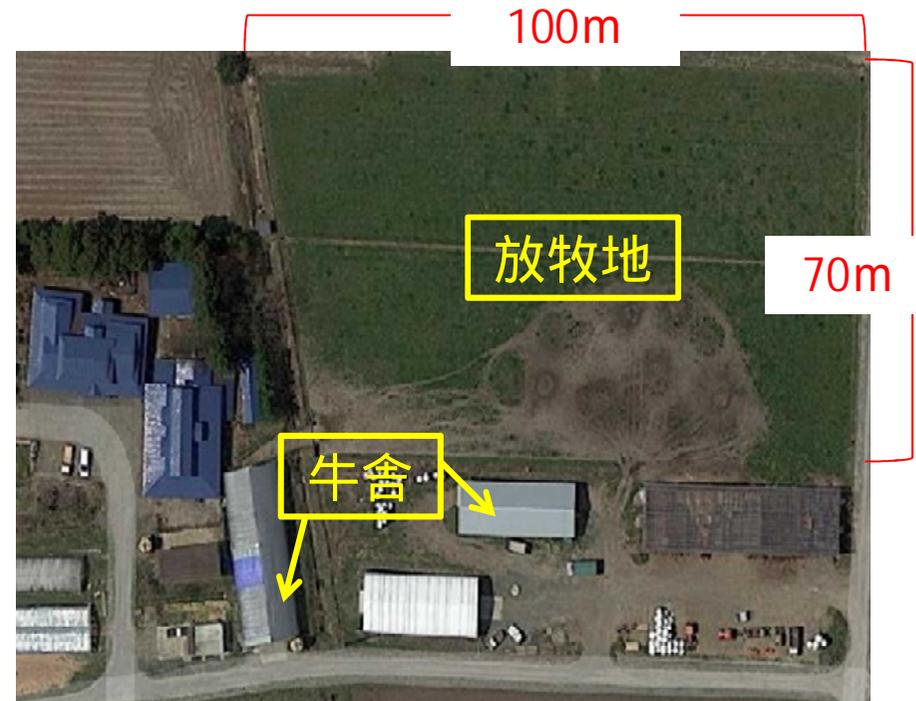
(法人作業分)

牧草地 2.3ha (31ha)

稲WCS 3.9ha (31ha)

## 労働力

家族3名 本人、父(69)、母(68)



# 導入のキッカケ

---

**繁忙期は牛の観察時間が確保できてない**

牛の世話・観察にかけられる時間

通常：朝・夕の各2時間 + 昼の1時間

繁忙期：早朝・夜の各30分程度、しかもへトへト  
**(4~11月)**

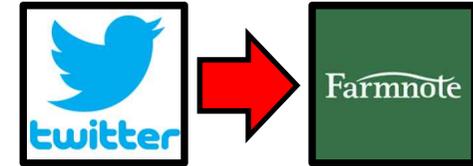
繁忙期の繁殖成績が非常に悪い・・・



**管理の省力化 & 繁殖成績の改善をしたい!!**

# 機種選定の経緯

ネットで検索



SNSで1番上に表示されたのがFarmnote

牛群管理システム利用料が無料 R1.11 ~ 利用開始

FarmnoteColorにも興味がわく

子牛市場の企業ブースにて

FarmnoteColorのデモ機を知る

FarmnoteColorのデモ実施 R2.2 ~ 4月

発情管理ができることを確認

# 導入後の活用状況

## Farmnote使用期間

Farmnote : R1.11月～現在

FarmnoteColor : R2.2～4月（デモ）

R2.8月～現在

（本契約 センサー5台）



## センサー装着期間

分娩予定1か月前～分娩後、受胎確認するまで

## Farmnoteアプリ確認頻度

1日1回、毎朝の通知（発情予定牛など）を確認  
種付や治療を行う都度、入力

# 導入後の感想

---

## よく活用する機能

用途に合わせて2種類のアプリを利用



発情・種付・妊鑑・分娩・出荷の入力  
Today画面で発情予定牛などを確認



活動履歴など確認  
(ボタンがシンプルですぐ確認できる)

その他、タブレットで独自レポート作成やセンサー管理

## 感想

アプリ内の画面がシンプルで、入力・確認しやすい  
データ管理を独自に工夫しやすい

# 導入後の効果

## 分娩後初回授精までの日数

183日 (R1.11)      153日 (R2.8)      **81日** (R3.7)



## 直近の分娩間隔

516日 (R1.11)      **433日** (R2.8)      **428日** (R3.7)



# 導入後の効果

---

## コスト試算

### 機械導入経費

本機、センサー 5 台等購入費用 約32万円

システム使用料 23,760円/年 (25頭プラン)

### 分娩間隔88日短縮による効果

年間子牛生産頭数：**2.5頭分増**

1 頭60万円の場合、**150万円増**

その他母牛の飼料費減の効果もあり

**分娩間隔短縮による利益が機械導入経費を上回る**

# 標準化と管理の定着

---

## センサー取り付け、取り外し時期の適正化

- ・ 取り付け 分娩 1 か月前に取り付け
- ・ 取り外し 妊娠鑑定後取り外し

## センサー交換時期の消耗部品確認

- ・ 電池寿命確認後に管理項目とする
- ・ ベルト部の劣化状況確認（ 1 回/ 3 か月）

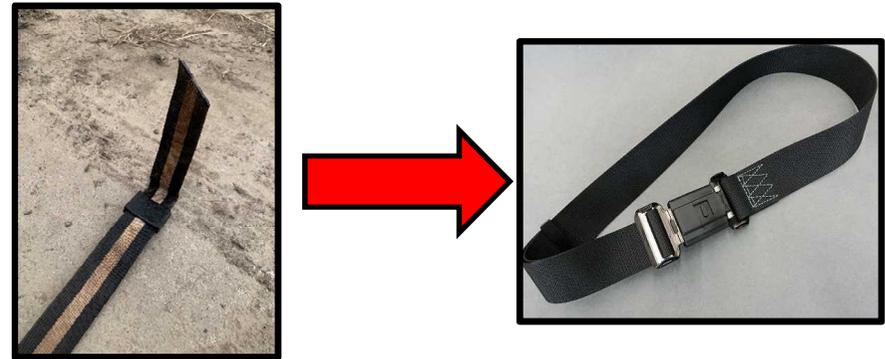


# 機器への要望

## 首センサーのベルト脱着の簡易化

ワンタッチで脱着できて、なおかつ外れないベルトがあればなあ・・・

EX) ・ワンタッチバックル



## 学習期間の短縮

センサーの需要が集中する時期は、この学習期間（1週間）がもどかしく感じることも・・・

個体過去実績の反映による期間短縮出来ないか？

# 今後の展望

センサーの受信範囲を  
放牧地まで拡大できれば、  
放牧牛もセンサーで  
発情管理をしたい



10頭増頭しセンサーを5台 15台に増やし  
更なる増収を目指す

IoT, ICT活用による先進性農業の展開

**ご清聴ありがとうございました！**